

船舶事故調査報告書

令和元年8月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（棧橋）
発生日時	平成31年3月9日 09時46分ごろ
発生場所	愛知県名古屋港（潮見ふ頭 ^{ビーイー} BE棧橋） 名港中央大橋橋梁灯（R5灯）から真方位018°530m付近 （概位 北緯35°03.5′ 東経136°52.1′）
事故の概要	ケミカルタンカー ^{エステイオー ヴァイオレット} STO VIOLETは、南南東進中、棧橋に衝突した。
事故調査の経過	平成31年3月13日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	ケミカルタンカー STO VIOLET（大韓民国籍）、738トン 9046590（IMO番号）、STO CHARTERING KOREA CORPORATION
乗組員等に関する情報	船長、二級航海士免状（大韓民国発給）
負傷者	なし
損傷	本船 船首部外板に擦過傷等 棧橋 歩廊橋に曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、下げ潮の中央期
事故の経過	本船は、船長ほか9人（大韓民国籍2人、インドネシア共和国籍7人）が乗り組み、BE棧橋に左舷着けとする目的で主機を使用して接近中、船長が、右舷錨を投下し、主機を極微速力後進としたが、前進行きあしが大きいことに気付き、全速力後進としたものの、同棧橋に衝突した。 船長は、減速開始が遅れたと本事故後に思った。
分析	本船は、BE棧橋に着棧操船中、船長が、右舷錨を投下し、主機を極微速力後進としたことから、前進行きあしが大きい状態でBE棧橋に接近し、BE棧橋に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、BE棧橋に着棧操船中、船長が、右舷錨を投下し、主機を極微速力後進としたため、前進行きあしが大きい状態でBE棧橋に接近し、BE棧橋に衝突したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・前進行きあしを正確に把握し、十分に余裕のある時機に前進行きあしを制御すること。